中南地区統合校開設準備委員会（第４回）概要

日時：平成３０年１２月２７日（木）
１３：３０～１４：４０
場所：スポカルイン黒石　大会議室

＜出席者＞
委員
黒坂　孝 委員、三上　雅也 委員、大久保　朝彦 委員、藤田　克文 委員、
山内　孝行 委員、古山　哲司 委員
オブザーバー
県立黒石高等学校
工藤　康暢 教頭、小野　淳美 教頭、原子　敏 事務長、竹村　俊哉 教務主任
県立黒石商業高等学校
川代　由美子 教頭、福士　桂子 事務長、須藤　慎二 教務主任、
菊谷　哲 情報デザイン科主任

１　開会

２　田村教育次長挨拶

田村教育次長から、挨拶があった。

３　事務局説明

（１）第３回中南地区統合校開設準備委員会における主な意見

事務局から、資料１及び情報デザイン実習室の見通しについて説明した。

委員から、次のような意見があった。

○　情報デザイン実習室の見通しについて黒石商業高校の情報デザイン科の先生方が良いというのであればそれで良い。しかしながら、私のイメージであるが、非常にスペースが狭くなっていると思う。私は商業デザイン科出身であるが、広いスペースがなければ実習は難しい。パソコンでの作業だけであれば良いが、手書きの作品等になると画材を広げてデザインしていくことになるので、このスペースでは若干狭いのではないかというイメージは持った。様々な制約があろうかとは思うので、今後も黒石商業高校の専門の先生方と協議しながら進めていただきたいと思う。

○　実習室の広さ等でまだ解決しなくてはならないことがあるかと思うが、担当される先生方と相談しながら、県教育委員会でもできる限りのことを検討していただきたい。

４　協議検討

（１）中南地区統合校開設準備委員会報告書（案）について

事務局から、資料２について説明した。

委員長から、資料２に対する意見を資料３として取りまとめているので、このことを踏まえ確認していく旨提案があった。

委員から、次のような意見があった。

○　この報告書（案）にある内容は、これまでの協議の中で委員が知恵を絞り合って議論してきたものである。しかし、校名については、開設準備委員会の中で私も意見を述べてきたが、この黒石地域において将来高校教育を受ける子どもたちの立場やその将来等を考えた場合、やはり市民たちにとっても子どもたちにとっても、この「黒石高校」という校名を使った方が良いという気持ちを強く持ったので、私の意見としてあえて挙げた。

また、校章についても様々な考え方があるとは思う。これまでの協議の流れとして、黒石商業高校の情報デザイン科の方に新たな校章を依頼したら良いのではないかという御意見も一つの考え方だとは思う。しかしながら、これまでの黒石高校の校章を活用した場合、果たしてどこが悪いのかをまず考えた。それから、新しい学校として設置すると言うものの、やはり黒石市に一つだけになる学校であり、これまでの黒石高校の校章で何か不都合があるかと考えても、見当たらない。また、新たな校章にする場合、今後の短期間の中で制作することになると思うが、今の若い人たちに責任を負わせることが果たして良いのかという感じがする。黒石市に黒石高校ができて卒業生が相当いる。その方々の考えもあるだろう。これから仮に５０年後、１００年後にまで、その新しくデザインした校章が、制作した子どもの将来に幸せが呼べるぐらいのものと本当になるのかという危惧を感じた。それだけの責任を負わせて本当に良いのかという感じすら持った。将来、黒石市で育っていく子どもたちのことを考えた場合、校章も今までの黒石高校の校章とするのが未来にとって一番幸せになっていくと思い、あえて私の意見として出した。

○　今までの協議で述べてきたことをあえて再度述べたということである。ただ、今の意見は、この校名についても校章についてもこの報告書（案）の中に明記されていることである。

○　黒石高校の名称や校章をそのまま活用するというのであれば、初めから黒石商業高校が黒石高校に吸収されるという議論で進めることになるだろうが、今回はあくまでも統合であり吸収ではない。

黒石高校及び黒石商業高校は一旦なくなり、新たな学校がスタートするという意味合いを持たなければ、今回の統合が対等統合であるという県教育委員会

の考え方にも逆行することになる。この開設準備委員会で今まで議論してきた経過どおりで良い。

○　私自身は、後で議論になるかと思うが、資料３の「その他」にあるような意見を持っている。この報告書（案）は今まで議論してきた内容かと思う。

○　校名については、委員がそれぞれの学校に対する思いがあって発言していると思う。これまでの話し合いの結果がこの２案となった。今までの経過を引き継いだ報告書にした方が良い。

　私の立場はどちらの高校にも属さないので地元として考えてみると、小学校も黒石小学校があり、中学校も黒石中学校がある。したがって、高等学校も「地名＋高等学校」で私は「黒石高等学校」で良いと思うのだが、今までの話し合いの経過では２案ということとなったので、その２案とする報告書（案）で良いと思う。

　校章については、前回の委員会で制服も一新するということに伴って校章も考え直せるのであれば一新してはどうかということになったかと思う。結果的にあらゆることが黒石高校サイドになってしまうと、今までの話し合いの積み重ねが結果的には実を結ばなかったという感じにもなるので、校章については新たなものを制作することとし、それと今までの校章と比較して最終的に判断してもらってはどうか。今の段階で新しい校章をデザインせずにこれまでの校章を活用するということは、今までの話し合いの結論が生かされていないという気がする。

○　これまで委員の皆さんが色々と協議してきたことが生かされているので、この報告書（案）で良い。

　委員長から、資料３にある校名、校章に関する意見の内容については報告書（案）にも記載されているので、この報告書（案）について了承していただけるか確認を求めた。

○　確かに記載されているので、委員長が今話した方向で構わない。ただ、私の気持ちとしては資料３のとおりであると理解していただきたい。

○　私の意見になるが、校章に関して黒石商業高校情報デザイン科に依頼して作ってもらうことは非常に良いことだと思う。決定に際しては黒石商業高校の校章、黒石高校の校章、そして新たに生徒が制作した校章を見比べてみることも、もしかしたら良いのではないかと思う。検討する場を設けないまま決定することが少し不安だという思いを持っている委員もいるようなので、生徒が制作すること自体には反対ではないが、新たなデザインの出来映えを見ながら、これから設置する開設準備室内で、この３つの中から選ぶということであれば、委

員も納得すると思う。

委員長から、この開設準備委員会の案としては、新しい校章は黒石商業高校情報デザイン科の生徒に作ってもらうという報告書（案）のとおりとし、決定の仕方については検討を加えていただくということで良いか確認し、委員から了解された。

委員長から、資料３「その他」の意見について意図を確認した。

○　開設準備委員会の意見として、黒石高校の校訓及び黒石商業高校の「誓いの言葉」、それから校歌についても両校の校歌を引き継ぐとされた。この報告書（案）が決定すれば「案」ではなく正式なものとして、恐らく県教育委員会のホームページにも掲載され、県民の方々等も目にすることになると思う。しかし、開設準備委員会に関わってこなかった方々には、ただ単に校訓、「誓いの言葉」、両校の校歌という文言だけでは、実際にそれがどういう中身を持っているかという点について、うかがい知ることができないと思う。
　そこで附属資料の中に具体的に「校訓」、「誓いの言葉」はこのような言葉、そして両校の校歌はこのような校歌だということを盛り込むことによって、県民の方々等にも具体的に理解されることになると思う。

委員長から、報告書（案）の附属資料の部分に、両校の校歌、校訓、黒石商業高校の「誓いの言葉」を加筆することについて委員の確認を求め、委員から了解された。

委員長から、附属資料に両校の校歌、校訓、黒石商業高校の「誓いの言葉」を加えることとし、その他については報告書（案）の原案どおりとすること、修正した報告書について事前に委員長と副委員長両名が確認した上で、委員長から県教育委員会教育長に提出するとともに、委員各位にも後ほど送付することとする旨確認し、委員から了解された。

（２）その他全体を通した意見について

委員長から、開設準備委員会が終了するに当たり、これまでの意見のまとめや感想について、全ての委員に発言を求めた。

委員から、次のような発言があった。

○　中南地区統合校開設に必要な準備をするために、この開設準備委員会において委員がそれぞれの立場においてそれぞれの思いを伝えることができたかと思う。中南地区統合校といっても実際には黒石市内の２校の高校が統合になった

ということであるが、開設準備委員会の報告書を基に、この地区の統合校が、これからの時代に求められる力を育む学校であったり、特色ある教育活動が実践される学校であったり、充実した教育環境づくりができる学校となることを期待する。また、そのことを目指して意見が交わされた委員会であったと思う。

○　私は以前、県立高等学校教育改革第３次実施計画における統合準備委員会に関わっていた。その統合準備委員会では統合とは言うものの、残る側の高校の思いだけが尊重され実質的には吸収ではないかという意見もあった。今回の開設準備委員会では、前回までの反省を踏まえ、一方的に残る側の高校の思いだけを伝えるのではなく、両校の思いも残すとともに、両校の思いを受け継ぐ部分と新たな発案の部分がうまく融合した形になったのではないかと思う。

○　この統合は少子化に伴う県教育委員会としての苦渋の決断だったかと思う。是非、統合した学校が地元に愛され、地元に貢献できる子どもたちを育てていただける素晴らしい学校にしていただきたいと思う。

　この中南地区では、どうしても優秀な子どもは弘前市内の高校に進学する。また、この第１期実施計画を見ても普通高校が残っていくという流れがある。教職員の配置等に関して平等にしていただき、わざわざ弘前市内の高校に進学しなくても黒石市の高校から東京大学に十分進学できるような学校にしていただきたい。

　今回は黒石高校と黒石商業高校の２校の統合であるが、他地区では大変なこともあろうかと思うので、県教育委員会には是非頑張っていただきたい。

○　本当に大変な作業であったと思う。私は、黒石商業高校が開校する時から関わってきた。その時もそうであるが、結局どのような高校が黒石市に必要なのかという観点が大切だと思う。

　また、その高校自体の取組方によっては、相当の実績を挙げることが可能なのだと考えている。以前、黒石高校には英語科など様々な学科があった。現在黒石高校にある普通科以外の学科は看護科であるが、医療に従事する方であれば、黒石高校を知らないという人は日本中でほぼいないというくらい浸透している。やはりそれくらいの実績を現実に挙げているわけである。そういう意味で普通科だけでは、黒石市に設置される高校としては完全ではない。

　今、この地域の子どもたちが将来活躍できる足場としての高校が必要なので、もしかしたら将来的に更に必要となるものが出てくるかもしれないが、現在の黒石高校にはない学科も加えることで、地域の子どもたちが将来羽ばたいていただきたいという思いが一番強い。

　少子化という状況で開設準備委員会に出席したが、私が思うに黒石商業高校にしても黒石高校にしても、その辺は冷静に判断しながら、黒石市に生まれた子どもたちの将来の幸せにいくらかでも貢献できるような議論がなされたのではないかと思う。委員になったことを幸せに感じている。本来であれば統合は

マイナスのイメージかもしれないが、この新しい教育環境が、子どもたちが将来幸せになってくれる一助になればありがたいと思っている。

○　黒石市教育委員会の教育委員には、小学校の立場の委員、中学校の立場の委員、また、高等学校の立場として前黒石商業高校校長が、そして、保護者代表として１名入っており、市長は、「黒石市教育委員会は義務教育所管であるが、小中高一貫あるいは小中高連携を目指して、教育委員も選んでいる。」と話していた。

そういう意味でこの開設準備委員会も、黒石市の子どもたちのため、より望ましい高校教育が充実することを願っているものだと思う。開設準備委員会では、高等学校を中心に話をしてきたが、小学校１０校が４校に、中学校４校が２校に、そして高校も半減というように、黒石市は他地域よりも統合が一段と進んでいる。

２年前に教育長に就任した際には、市議会での質問は非常に緊迫していた。小中学校の統合がどのように決定していくのか、そして、今後どのようになっていくのか、議場でも大変注目の的であった。今では誰も質問する議員はいない。そのくらい、皆さんに理解されてきたのではないかと思う。

昨年度、この黒石高校と黒石商業高校の統合の決定がなされた時には、すんなり了承ということがなかなかできないようなムードであった。今日、報告書（案）が出された。昨年度のイメージとしては黒石商業高校の学科が黒石高校の中にできるということから、何か特別な実習棟でも増設され、その中に実習室やあるいはその他として要望したねぷた製作の工房等まで考えていただけるのかなという希望も若干あった。しかし、今結果的に報告書（案）を見るとややこぢんまりとしているのではないかという印象を受ける。

統合校の開校まで残り１年あり、来年度開設準備室が設置されると思う。まだ最終決定ではないと思うので、統合したことによって、新たなインパクトのある目玉となるような教育活動もこれから考えていただきたい。

また、制服についても一新すると思うが、検討しているワーキンググループの中身を公開していただきたい。ある程度の素案ができてから公開されるというよりも、その制作の過程で、生徒代表やＰＴＡ代表等の意見を聞くことで、保護者からも協力を得られると思う。黒石市でも新成人が３００人を超える成人式があるが、最近ではほぼ同数の保護者が出席する。少子化に伴って保護者の関心も非常に高いものになってきている。制服の決定にしても同様だと思う。新たな統合校でこれから行われる教育活動がたくさんの意見を取り入れて成り立っていると、皆さんに広く理解されるのではないかと思う。

先般１１月に公表された高校の志望者数を見ると、黒石市内の２校の志願者数はやはり寂しい。２校を合計した人数で見ると、これからできる統合校や、その新しい教育活動に注目が集まっているという数値ではないと思う。どうか今後は様々なピーアールを行い、中学生も在校生も保護者も新たな統合校に大きな期待を寄せ、そして統合校が、それに応えられるよう、より充実した教育

活動を一層行ってもらいたいと思う。

これまで述べてきた意見が十分反映されて、黒石市民や県民から注目されるような活動につなげてもらえれば、この開設準備委員会が一つのモデルになると思う。そのために、今までの活動が目新しい何かに結びつくことを期待したいと思う。

○　この委員を引き受けるに当たって感じたことを一言述べたい。

学校というものは、必ずやこの地区の将来を背負って立つ人間が集まっている場所だと思っている。その学校が少なくなるということは、地域の発展を願う市民、町民等の方々がその思い、期待、希望を寄せる場所が減るということにつながりかねない。もっと極端な話をすると、家族を失う、親兄弟を失うような気持ちに匹敵する、そういう気持ちではなかろうかと思っている。

しかし、委員を引き受け、一つの方向性をまとめる際には、そのような思いを表す方向性ではなく、委員の皆さんのこれまでの意見にもあったように、学校という２人が一つになってもっと大きな人間になる、そういう学校を作り上げていくことが感じられるような方向性にできたら良いという思いでこの委員を引き受けた。

実際、このように報告書（案）を見てみると、できるだけ両校の良いところを生かし、そしてなんとか魅力ある学校を作っていこうという思いが少しは表れた報告書（案）になったのではないかと感じている。

そういう意味において今この瞬間少しほっとしているということも正直なところである。本当に４回という少ない回数の委員会ではあったが、皆さんの思いを感じることができた。また、この協議が私の思った内容に少しはなったのではないかと感じる。

そして、この先、統合した学校が発展し、統合して良かったと地域の人に思っていただけることを期待してこの役目を終えたいと思う。

５　田村教育次長謝辞

田村教育次長から、謝辞があった。

６　閉会